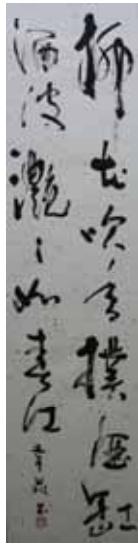


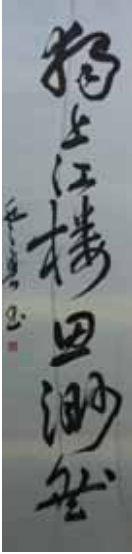
## 医家書道展の作品掲載でお詫び

本誌秋季号の書道展特集で過ちがありましたので、お詫びして訂正します。

まず29頁中央の「般若心経」長谷部英男とあるのは、「柳花吹香撲」高橋正子（幸苑）さんの作品でした。ここに再掲します。



また、鈴木久世（登興）さんの作品「獨上江樓思渺然」が欠落していました。改めてご紹介します。お二人には、大変ご迷惑をおかけしました。



## 編集後記

ことしも旬日を残すのみとなりました。ミレニアムという言葉が氾濫し、コンピュータシステムの2000年問題が云々されてから、もう10年経ちました。

その頃は「医家芸術」も毎月発行、文芸特集号も200ページを越すのが当たり前。浜名新氏の文芸部雑記でも明らかなように、各執筆者への負担金は相当重いものだったので、今も健筆を振るう沼口満津男、山田遼、天瀬裕康、陶易王、村山正則各氏らが屋台骨を支えてくれました。長年のご努力に感謝します。

さて、そのベテラン先生

方に続いて、新たに短歌部の林宏匡先生が“古里”でもあるホルムスクへの訪問記と追詠百首を寄せられました。戦時下の苦勞を忘れて懐旧の念いっぱい、海外からの引き揚げ体験者に共通の記憶が重く身にまといついでいます。また久々再登場の浅田高明氏の「あの夏……」も、人と人の出会いの不思議さを思わせる一方、鋭い文明批評です。

新作落語の吉元昭治先生は、北京の街路を涉獵する以上に江戸の風俗にも通じた趣味人。小南先生、大塚先生のカラー写真はいかがでしょう。また今回は“雌伏”された皆さま方の健筆を、来年にはぜひと期待しております。

( )